鎧橋随想

（順不同）

似て非なるもの

米常商事　副社長　小瀬古　賢次郎

広辞苑によると、【自然】天然のままで人為の加わらないさま――とある。遠目には、豊かに奇麗に延々と続く整った山並み……今、我々が目にするそれは、実は人工的工作物であって、もともとの自然とは似て非なるほど遠いもの。これを大自然と勘違いしているのではないか。

日本の山々に植林されたものは、現在ではコスト割れで荒廃し放置。河川は全てコンクリートの護岸工事が施され、所謂〝さとやま〟は絶滅の危機にある。田舎の友人は、雑木林が無くなって雉・山鳥・小綬鶏等が営巣できない為、見かけなくなり、人工林で日陰ができ、ヤマイモ・キノコ・ワラビ・ゼンマイ等も激減し、河川にはアユ・ハヤ・オイカワ・フナ等も殆どいなくなり、果てはトビも飛んでいないと嘆く。

自然餌が無くなった為、鹿・猿・猪等が人家のあたりに現れ、田圃の農作物を狙うため、それらと格闘中との事。

我々も生者必滅の独立して生活を営む一個の生命体だ。さはさりながら、改めて自らの生活を客観視した時、この生態系の異変に加担している生き様に、反省と羞恥を覚える。自然を侮るなかれ……と。

上海視察旅行

アイメックス　常務　足原　博和

〝百聞は一見にしかず〟私はこの言葉の意味を今回の初めての上海視察旅行で改めて感じました。確かに今の中国の発展状況をテレビ・雑誌等で見聞きはしていたのですが、実際に自分が空気を肌に感じるまで、どこか自分の頭の中で中国は人民服に自転車のイメージが定着していたようです。

実際、自分の目で確かめると、そのあまりの発展ぶりに目を見張ってしまいました。乱立するビル群、その繁栄ぶり、東京のそれを凌駕したような都会に度肝を抜かれました。

ただ、庶民の生活は、そのビル群に対してまだまだという感じも受けました。実際、高層マンションにも夜、明かりの灯っている所がまだ少なく、明らかに庶民の生活レベル以上にビルが建ちならんでいる感じを受けました。恐らく経済の過熱からくるバブルが発生しているのは間違いないと思います。

それでも中国人のエネルギーを感じ、仮にバブルがはじけても、あの生命力からいって、中国は恐らく、さらに発展するだろうと強く感じました。やはり実際目で見て、肌で感じないとわからないとつくづく思いました。

ふるさと

カネツ商事　取締役　三好　剛

私の故郷西条市は、愛媛県の東部にあります。東予と呼ばれる愛媛県東部には、華やかな秋祭りが多く、なかでも西条祭りは、絢爛豪華で知られ、市民たちは「日本一」と信じて譲りません。

腹に響く太鼓、力の限り叫ぶ掛け声、きしむ途方もない重量を支えるかき棒。その苦悶に似た表情にこそ、男どもの恍惚と陶酔があります。

金木犀の花が香り始めると、太鼓が耳の底で鳴って、もうどうにもならない。盆正月には戻らない人々も、秋には誇らしい祭りを目指して、まっしぐらに帰郷します。

西条には、もうひとつ自慢できるものに、おいしい水があります。

市内には、広範囲に地下水の自噴井があり、これらは「うちぬき」と呼ばれており、その数は約2、000本といわれております。

「うちぬき」の1日の自噴量は約9万㎥に及び、四季を通じて温度変化のない水は、市民の生活用水、農業用水、工業用水に広く利用されています。

この「うちぬき」は名水百選に選定されています。全国利き水大会で、2年連続全国1位のおいしい水に選ばれています。

水と祭りの故郷ですが、いつまでも大切にしたいと思います。

春の楽しみ

光陽ファイナンシャルトレード　常務　田元　利明

毎年春になると、大手生命保険会社が主催する「サラリーマン川柳コンクール」の優秀作品が発表される。

今年の第1位は、《「課長いる？」返ったこたえは「いりません！」》。中間管理職にちょっぴり厳しい受賞作であったが、2年前の受賞作《デジカメの　エサはなんだと　孫に聞く》は、なかなかであったと思う。

聞くところによると、コンクールの順位は投票によって決めるらしく、毎年10万人以上が投票する。主催する保険会社の宣伝効果たるや大変なものがありそうだ。

この保険会社のホームページを開けて見ると、トップページはこのコンクールの記事だけで構成されている。

商品設計だけではなかなか差別化を図り切れない保険会社らしい構成ともいえるが、わが業界がこのような形で販促を行う時代も、そう遠くない将来に訪れる予感がする。

《まだ寝てる　帰ってみれば　もう寝てる》――遠距離通勤を詠んだらしい。が、遠距離通勤でなくとも、業界にはこのような毎日を過ごされている方が多い。

制度改正を乗り越えて、業界全体の発展を切に願っている。

日々努力

インター・ホールディングス　常務　川畑　純一

平成16年度の、当社新入社員は男女合わせて30名だった。

新人諸君は夢と希望と、そして不安を胸に入社式に臨んだ。

全員が力いっぱいの声を出し、またぎこちなさの中での挨拶等の動作は、非常にすがすがしいものであった。

同時に私は「初心忘るべからず」の言葉が私自身のことを含めて脳裏をよぎったものだ。

現在、企業はどの分野においても今まで経験したことのない厳しい環境の下で生き残りをかけた競争にさらされている。

また、社会も同様で、平成新時代ともいえるような変化を毎日見せている。しかし、大きな変化はチャンスでもある。

それは一朝一夕にできることではないが、決して不可能なことでもない。日々努力である。

その努力は、自分のためにするものである。努力は対価が計算できるものでもなく、するものでもないと思う。

しかし、結果はいろいろな形で必ず現れる。

これは時代がどんなに変化しようとも通用する先人の教えである、と私は訓示した。

されど山登り

岡地　取締役　笠井　輝久

ある年、田舎の恩師から届いた一通の年賀状が私に転機を与えてくれました。70歳を超えた恩師夫婦が山の頂でほほ笑む写真付きでした。そろそろ老齢期と決めつけていた私にとって衝撃の一枚のハガキでした。丁度そんな折、知人が奈良の80山という本を上梓した事を知り、早速弟子入りを懇望し、私の山登りがスタートしました。

奈良の山はさほど標高はありませんが、熊野を発し、修験者が行く奥駈道。役行者も引き返したという行者還岳、女人結界の山上ヶ岳と結構名の知れた山々が連なっています。今はその80山の全山踏破をめざして挑んでおります。

幸い子等も巣立ち、これといって共通の趣味のなかった夫婦に唯一共有出来える会話を持てるのは、何よりです。春は木々の青葉に身も心も癒され、夏は花を愛で、秋は紅葉を堪能し、冬は樹氷の中を行く。心臓が張り裂けんばかりになって、頂上についた時は「ああ、俺にもまだこれだけの体力がある、まだやれる」と自分を納得させています。

やがて、故郷の山々を夫婦でゆっくりと人生の軌跡を辿れる思いを重ねて登ってみたいという夢を描いております。

第13回商品取引員親睦野球大会

6月22日、千葉マリンスタジアム

【決勝】（注：2時間で打ちきりのため8回まで）

	1	2	3	4	5	6	7	8	
光陽グループ	0	0	0	0	0	0	0	5	5
小林洋行	1	0	0	0	0	1	0	2	4

【3位決定戦】　北辰物産 5－3 北辰商品

事務局だより

6月9日、当協会も協賛する「日経商品先物シンポジウム」が開催され、大盛況でした。

その基調講演の中で、中谷巌氏は、「日本語にはリスクの概念に相当する単語がない。仕方がないのでリスクを危険と訳した。しかし、危険は英語ではデインジャーであり、とにかく避けるに越したことはないもの。一方、下手に対応すれば失敗するが、うまく対応すれば大きなリターンのチャンスがあるのがリスク」と話されました。

そうすると、「リスクを回避する」という言い方は、本当は正しくないのかもしれません。むしろ逆に、自ら進んで「リスク」に取り組んでいくこと。これこそが、ビジネスでの成功のみならず、個人の人生を豊かなものにする法則のようなものではないでしょうか。

拝見　手作り革細工

ヒモ付きゴルフヘッドカバー

全商連元常務　上遠野　次男

上遠野さんはゴルフ好きとして知られる。喜寿に近い今も月に2、3回コースに出る。そして一緒にプレーした人が等しく認めるのはその飛距離の凄さである。ドライバーは200ヤードを超す。

同行プレーの折、拝見したが、上遠野さんのヘッドカバーはすべて手作りである。材料を買ってきて、自ら家庭用ミシンで縫う。プラスチックの芯など手縫いの個所もある。ドライバー用の場合、2日間位で仕上げる。ヘッドカバー作りのきっかけは、かつて同類のカバーが市販されていたが、デカヘッドがはやり始めて入らなくなったことと、今はやりの美麗なカバーはユーティリティを含めキャディバックに収まりにくくなったためという。

上遠野さんのヘッドカバーは1番と3番、4番と5番、6番と7番といったように、2つがヒモで結ばれているのが特徴だ。

「キャディさんが喜んでくれましてネ。ヒモで結んであるため、クラブを抜き取るだけでいい」と上遠野さん。

ヒモ1つとってみても金具を使い、頑丈にできていて、つぶさに見た人はその技術の確かさと入念な仕事ぶりに舌を巻くに違いない。あの膨大な『商品取引所法改正経過要覧』を二冊までも編さんした人ならではの緻密さである。

▲頑丈で入念仕上げ

上遠野さんは、もともと手先が器用で、何でも屋の「工作」好きの由。

役人時代、先輩が駒場に家を新築した時、網戸を付けるという大工さんとの約束がだめになり、夏前に網戸を15枚も一気に作ってやって驚かせたことがある。まだアルミサッシなど出現する前の話だ。

第2次大戦末期、勿来（なこそ）からアメリカ本土に向け打ち上げられる風船爆弾を眺めながら呉羽化学工場で学徒動員に勤しんだとか。

デカヘッドのごわごわしたカバーでお悩みの方は一度上遠野さんに相談してみてはいかが。ただし、同類のものは2度やらないとのこと。

▲合成皮革を買ってきて……